

日本体育協会

総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジン

〈連載〉東日本大震災被災地 応援情報

かくのたて

NPO法人角館総合型地域スポーツクラブの取り組み



キーポイント

- 被災地から避難されている被災者への支援活動
- 被災者を地域の一員として迎える
- 大事なことは、クラブとして「できること」を実施していくこと

1 被災地の子ども達との交流会

名称：楽しく・スポーツクラブ祭 ちびっ子運動会&読み聞かせ
対象：被災地から避難され、仙北市にお住まいの方々
日時：平成24年11月18日(日)9:00~12:00
場所：秋田県仙北市 NPO法人角館総合型地域スポーツクラブ体育館
内容：体を使ったゲーム、本の読み聞かせ、映画鑑賞などで楽しく交流を図り、心身のリフレッシュを図った。(実施種目など：ハイハイレース、パン食い競争、風船はこび、バランスボールころがし、読み聞かせ、パネルシアター、囲碁大会)
※地元住民及びクラブスタッフから地元農産物などを商品として提供されました。

参加者：40名

運営：クラブスタッフ15名

経費：10万円



2 支援活動の具体的な内容について

東日本大震災から2年以上経過しましたが、被災地の復旧・復興は依然大変な状況が続いています。「NPO法人角館総合型地域スポーツクラブ(以下、クラブ)」(秋田県仙北市)では震災後、厳しい交通状況などもありましたが、ただちに現地へ物資を送る支援活動などを行ってきました。現在も行政と連携をとりながら、市全体で被災者の受入れ、物資支援などを行っています。

クラブが所在する仙北市では、震災後に被災者の受入れ支援を行っています。仙北市、特にクラブの活動拠点である角館町や田沢湖町は東北地方有数の観光地ですが、震災の影響で観光客が激減しました。そこで、行政やホテル・旅館などの宿泊施設が働きかけ、空きのある宿泊施設や雇用促進住宅を被災者の受入れ施設として活用することとしました。現在、仙北市が受け入れている被災者数は57名です(震災直後は97名)。

クラブでは、特に現在仙北市にお住まいの被災者の方々に、支援活動を積極的に展開しています(上記1の交流会などを実施)。

3 被災者を地域の一員として迎える

支援活動において、クラブではどんなに忙しくてもクラブで「できること」を見逃さないようにしています。

例えば、クラブハウスには地域住民が集まる交流広場があり、そこには無料で利用できるパソコンが設置されています。これは、被災者の方が故郷の知り合いとメール交換などができるよう配慮したものです。また、交流広場では被災者の方々が不安な気持ちなどを心おきなく言える場、そして被災者の声を聞ける場として活用できるよう雰囲気づくりに取り組んでいます。こうしたちょっとした取り組みをクラブでは大事にしています。

また、クラブが被災者と交流する上で心がけていることは、被災者の方々を被災者として「特別扱いしない」ことです。被災者の方を被災地の方として見るのではなく、地域に住む一員として接するというのをクラブ会員にも伝え、共通理解として普段のクラブ運営を行っています。



4 故郷へ戻った方々への配慮と支援活動の今後

クラブでは、故郷に戻った方々にも「どうしていますか」「不便なことはないですか」という状況を聞き、適宜不足物資を送る支援も行っています。

被災地支援活動で苦勞していることは、被災地の復旧・復興が遅れていることへの懸念とそれに向けた対応であると考えています。しかし、クラブでは「クラブとしてできることに限りがあっても、助け合う心を決して忘れず、常に『今できること』『今やれること』に精一杯努める姿勢を欠かさない」ことを考えており、その姿に励まされました。

(公益財団法人秋田県体育協会クラブアドバイザー 田中 忠夫)

※NPO 法人角館総合型地域スポーツクラブの震災直後に行った支援活動の様子はこちらをご覧ください。

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H24/H24.2_fukkousien_akita.pdf

クラブプロフィール

設立年月日：平成 17 年 5 月 26 日

地 域：秋田県仙北市角館町勝楽 134

運 営：会員数 350 名(平成 25 年 4 月 1 日現在)

予算規模 約 600 万円(平成 25 年度)

特 徴：大型家具店倉庫をクラブハウスに改築。活動種目はスポーツ活動以外に囲碁、将棋、健康麻雀など文化活動もある。

連 絡 先：〒014-0341 秋田県仙北市角館町勝楽 134

TEL / FAX : 0187-54-1505